

地方病（日本住血吸虫症）の研究や治療に尽力した昭和町出身の医師杉浦三郎と父健造の功績を伝える「町風土伝承館 杉浦医院」のオープンに、町教委職員・館長として携わりました。医院はかつて父子の診療所でした。町が買い取り、伝承館としてオープンする段階から、山日は折に触れて記事にしてくれま

創刊150年
山日と私
<90>

した。山梨に山日があるから、地方病や杉浦医院はかなり周知されたと思います。

オープンに向けて、杉浦家の所蔵品や資料を整理しました。杉浦家では、おわんを包んだり、器を収納するときの緩衝材にしたりと、至る所に新聞紙を使っていました。三郎の長女純子さ

昭和町風土伝承館 杉浦医院元館長 中野良男さん

地方病との闘い 後世に

んの口ぐせの一つが「新聞はいろいろ使える」でしたが、本当にその通りでした。作業をしながら新聞を広げると、当時のやりや世相が手に取るように分かりました。「情報が変わらない」と言われますが、それを実感しました。日々の記事が何十年、何百年たつと貴重な歴史の資料になる。山日



「山日は郷土史の書庫」と語る中野良男さん
＝中央市大鳥居

なかの・よしおさん 東京都内で小学校教員として勤務した後、42歳で昭和町役場入り。定年退職後の2010年4月から20年3月まで杉浦医院の館長を務めた。峡南教育事務所スクールソーシャルワーカー。中央市大鳥居在住。74歳。

は郷土史の書庫だと思います。開館後、ホームページで連載したコラムも、新聞からネタを探したものが多くあります。地方病は全体像の解明までに30年以上の時間を費やしました。コロナ禍の今、その歴史は教訓に満ちていると思います。地方病の元患者や当時治療に当たった医師も高齢化しています。

火曜、金曜日に掲載します。次回は30日、映画監督の矢崎仁司さんの予定です。〈聞き手・杉原みずき〉



Sannichi YBS Group

おめでとう杉浦医博

（日本医師会最高功賞）



地方病と55年

昭和 執念の撲滅研究実る

地方病撲滅への研究が評価され、杉浦三郎医師が顕彰されたことを伝える記事（1974年10月16日）